

【フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要

学校名	八雲村立八雲小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15	22
児童数	56	72	74	74	58	74	5	413	

研究の概要

1. 研究主題

分かる喜びを実感し、おもしろさを感じながら、自ら課題を追求する児童の育成  
～算数科におけるきめ細かな指導の工夫を通して～

2. 研究内容と方法

(1)実施学年・教科(選択した理由を付すこと)

1～6年生、特殊学級 算数 活動する楽しさ、算数のよさや美しさを味わう授業づくりを通して、考えることを楽しむ心が育ち、それが「自ら学び、自ら考える力」につながっていくと考えたため

(2)年次ごとの計画

平成14年度

テーマ  
ふるさとから広く世界に目を向け、たくましく生きる力を持った八雲の子  
～「確かな学力」を身に付けた児童の育成～

仮説  
算数科において、児童の実態や各単元に適した学習形態のあり方を工夫すれば、個々に応じた支援がより可能になり、児童の学力が向上するであろう。  
総合的な学習の時間において、ゲストティーチャーを活用したり、課題別や興味関心別のグループ学習を取り入れたらすれば、児童は積極的に人とかわり、課題を解決しようとするであろう。

研究内容・方法  
算数科において、習熟度別少人数授業を実施し、個々に応じた支援を行う。  
算数科において、各単元ごとのプレテストなどを通して児童の実態を把握し、児童が学習コース(どんどんコースやゆっくりコース)を自ら選択できるようにする。  
算数科において、児童の実態や各単元に適した多様な学習形態を工夫する。  
算数科において、発展的・補足的なプリント、習熟の程度に応じて楽しくできる教材を開発する。  
算数と国語において、観点別到達度学力検査を行い、課題となる点や得意な点を把握し、指導の参考とする。  
総合的な学習の時間において、単元の開発を行い、単元構成を工夫する。  
総合的な学習の時間において、児童の課題や興味・関心に応じたグループ作りを工夫する。  
総合的な学習の時間において、ゲストティーチャーを活用する。

テーマ  
分かる喜びを実感し、おもしろさを感じながら、自ら課題を追求する児童の育成  
～算数科におけるきめ細かな指導の工夫を通して～

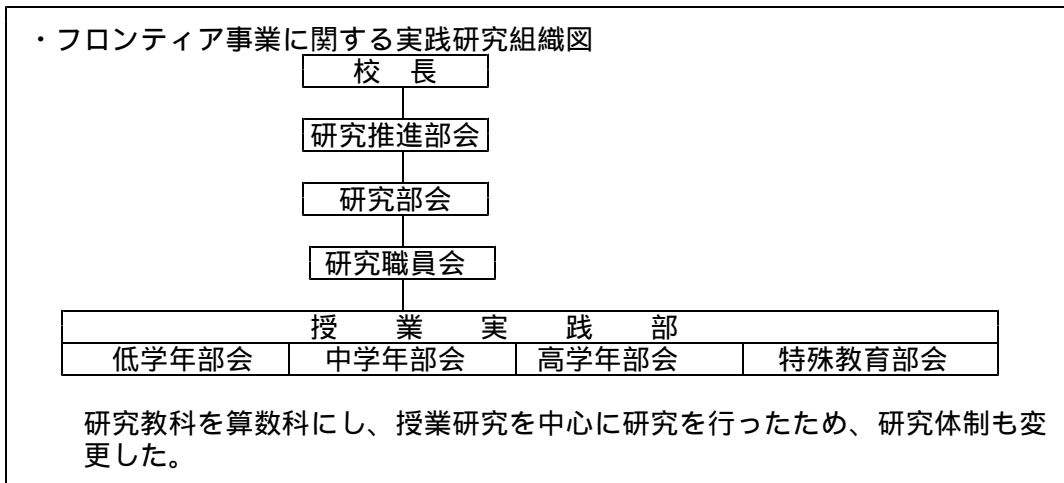
仮説  
個に応じた教材開発を工夫すれば、児童は自ら課題を追求するであろう。  
児童の実態や各単元に適した学習形態のあり方を工夫すれば、個々の児童への支援がより確実になり、学力向上につながるであろう。  
児童のつまずきに応じた手だてを工夫すれば、個に応じたきめ細かな指

平成 15 年度	<p>導が実現し、児童はわかる喜びを感じ取ることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法  プレテストやふりかえりカード、ポートフォリオ等を活用し、児童の実態を把握する。そして、児童がより適した学習方法を自ら選択できるよう支援する。  児童の実態や各単元に適した多様な学習形態（少人数指導やTT学習）を工夫し、個に応じた支援を行う。  グループ学習を充実させることによって、友だちとのかかわり合いの中で多様な考えを出し合って共に考える学習活動が展開できるようにする。  自分の考えを持ち、友だちと多様な考えを出し合って共に考える中で考えることを楽しむ心が育ち、それが確かな学力向上につながると考えた。  児童の考え方を把握し、実態や学習内容に応じて楽しく学習できる教材を開発する。そして、具体物を用いた活動を取り入れながら児童がイメージ豊かに問題に取り組むことができるようにする。  単元別に児童のつまずきに着目し、児童の思考過程をつかんで指導方法を改善する。また、学年間の情報交換も行い、つまずきの系統性の認識や児童の実態の把握にいかす。  子どもの実態を把握し、評価を生かした支援計画をたてて指導実践する。  つまずきや多様な考え方など、児童の思考過程に焦点を当てた評価と支援計画をたてて指導実践すれば、多様な考えにふれ、様々な観点から物事を見る中で児童の考える力は養われ、学び合いの楽しさも味わうことができると考えた。  観点別到達度学力検査を行い、課題となる点や得意な点を把握し、指導の参考とする。</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ  分かる喜びを実感し、おもしろさを感じながら、自ら課題を追求する児童の育成  ～算数科におけるきめ細かな指導の工夫を通して～</p> <p>仮説  個に応じた教材開発を工夫すれば、児童は自ら課題を追求するであろう。児童の実態や各単元に適した学習形態のあり方を工夫すれば、個々の児童への支援がより確実になり、児童は、分かる喜びを実感し、おもしろさを感じながら学習に取り組むことができるであろう。  児童の実態を把握し、個々の考え方に応じた指導ができるような評価と支援のあり方を工夫すれば、児童は分かる喜びを実感しながら学習に取り組むことができるであろう。  つまずきだけに焦点を当てるのではなく、個々の多様な考え方を授業の中で絡ませながら問題解決を図るような学習を組んでいけば、その中で自ずとつまずきも焦点化され、分かる授業が展開できると考えた。</p> <p>研究内容・方法  プレテストやふりかえりカード、ポートフォリオ等を活用し、児童の実態を把握する。そして、児童がより適した学習方法を自ら選択できるよう支援する。  児童の実態や各単元に適した多様な学習形態（グループ学習や少人数授業など）を工夫し、個に応じた支援を行う。  児童の考え方を把握し、実態や学習内容に応じて楽しく学習できる教材を開発する。特に、活用する力の育成をめざし、生活体験をいかした学習ができるよう内容を工夫する。そして、具体物を用いた活動を取り入れながら児童がイメージ豊かに問題に取り組むことができるようにする。  めざす子ども像を中心に各教科等との関連性を明確にし、重点教科の実践研究の成果をいかして他教科等の年間指導計画を見直す。  15年度の実践をふまえ、児童の実態と単元の特性を考慮して、指導形態、指導方法を改善する。</p>
----------------	--

観点別到達度学力検査を行い、学力の変化を見ながら、成果として表れた点や更に課題となる点を把握し、指導の参考とする。

### (3) 研究体制



### ・平成15年度の成果及び課題

#### 成果

- ・グループ学習や少人数授業に取り組むことにより、教師の児童理解が深まり、個々に応じた支援がより可能になり、児童の学習意欲も向上してきた。
- ・学習過程で、一人学習 グループ学習 全体学習という流れで学習を進めた。自分で考えた方法を発表し合い、どの方法が問題解決に適した方法であるかグループで話し合う。そして、グループでの話し合いをふまえて全体で話し合い、考えを深めていくという過程を1時間の授業でもとるようにした。問題の書いてあるワークシートを使った一人学習の時間をできるだけゆっくりととるようにしたことは、児童一人ひとりが自分の考えをもつ上で有効であった。少人数でのグループ学習は、発表することに自信のない児童にとって楽な気持ちで自分の考えを言える場になった。また、自分と違う考え方にも触れることができ、自分の考えを説明したり相手の話すことを理解しようとしたりすることで、コミュニケーション能力の育成も図られた。人と違っていても自分の考えに自信をもち、全体学習の場でもしっかりと自分の考え方を主張する児童が増えてきた。そうした学習形態で進めた単元は、学習内容についての児童の理解度もよく、単元末に行ったテストでは、観点別の「考え方」でクラスの大半で高得点が得られたという結果が出た。また、1年生児童の感想の中に「さんすうっていろいろなかんがえかたをだすってということがわかった。おもしろい。」というのがあり、考えることを楽しんで学習した成果がうかがえる。
- ・教材開発や教材提示の工夫として、児童の生活経験に基づいた教材づくり、例題づくり、課題の設定などに取り組んだ。生活に結びついた身近な題材に児童は興味をもち、意欲的に活動に取り組んだ。
- ・つまずきを想定して学習展開を工夫し、正解だけを追求するのではなく、つまずき誤った答えにも着目した話し合いを指導過程の中に取り入れて、児童一人ひとりの考え方をいかすように工夫した。このことから、上にも述べているように、自分の考えに自信をもちたり、考える過程を大切にする姿勢が育ったりしてきている。また、つまずきを想定することで、教師も一人ひとりの子どもの思考に着目して幅広い視野で授業展開を考える目が育ってきつつある。

#### 課題

- ・発表や話し合いの時間をしっかりとろうとすると、かなりの指導時数を要する。単元内容と学習・指導形態を見直し、指導計画の改善を図る必要がある。
- ・学力把握のための学力検査や関心調査の見方や実施方法について検討する必要がある。
- ・学習過程で子ども同士のかかわり合いを更に密にし、学び合いの場を広げる必

要がある。

- ・正解、不正解にとらわれて、自分の考えに自信がもてない児童の学習意欲を高めるための手だての工夫を図る必要がある。
- ・評価の一つとして、児童のいろいろな考え方が出るようなテスト問題を工夫する必要がある。
- ・少人数やＴＴで指導する際の効果的な指導体制のあり方について、研究を進めていく必要がある。
- ・保護者に対して、学力向上のための取り組みについて情報公開を進めることによって、さらに理解を得る必要がある。
- ・單元ごとの効果的な教材開発を進めていく必要がある。
- ・学習したことを授業や生活の中でいかす場を意図的に作っていく必要がある。（問題づくりや家庭学習の工夫など）
- ・他教科、領域との関連も見直し、指導は、全校で学年間の系統性や関連性をもたせながら、共通理解のもと進めていく。お互いの情報交換を密にし、成果と問題点が児童にも教職員にもはっきり見えるようにしておく必要がある。

- ・学力把握のための学校の取組について  
算数と国語の「観点別到達度学力検査」の実施（年１回）  
指導形態や学習内容、方法に対する児童の意識、関心、意欲などを把握するための「算数に関する関心調査」の実施（年２回）
- ・フロンティアスクールとしての成果の普及について  
６月３０日、１０月３０日、１１月２７日の研究授業を八束郡内と松江教育事務所管内の学力向上フロンティアスクールに公開した。  
ホームページで研究の概要と実践の様子を紹介した。（更新予定）  
１０月２６日の参観日を使って保護者に取り組みの様子を紹介した。（２月６日にも実施予定）  
少人数指導のよさがおおむね理解され、下記のような感想が寄せられた。  
「グループで解き方を考えあったり人の意見を聞いたりして、ゆっくりと数と向き合え想像力を働かせられるので、良い試みだと思います。」  
「細かな部分に目が行き届き、一人ひとりの意見を大切にしてくれる、子どもの立場にたった授業だと思いました。」

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

【新規校・継続校】	１５年度からの新規校	１４年度からの継続校		
【学校規模】	６学級以下 １３～１８学級 ２５学級以上	７～１２学級 １９～２４学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	Ｔ・Ｔによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		